

淑瞳会のご案内

ごあいさつ

盛夏の候、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

女性医師は男性医師に比べ、結婚後は出産・育児という大きな問題、結婚していなくても種々のハンディを抱えながら勤務しなければなりません。男性と同等に評価されるためには3~4倍の努力を必要とするといっても過言ではないと思います。

そこで、女性医師がその英知を結集し、先輩後輩を超えて親睦を図りつつ各領域の最新のトピックスを学びながら、時代の流れに遅れを取ることなく、女性の能力を最大限に活かすべく切磋琢磨することは、きわめて有意義ではないでしょうか。

歴代の淑瞳会委員長が築きあげてこられた伝統を大切に守りつつ、女性医師のスキルアップ、出産・育児に伴う問題についての情報交換に「淑瞳会」が少しでもお役にたてれば、これにまさる喜びはありません。

今年度はとくに、日本眼科医会「男女共同参画事業」として資金補助をいただきました。

今回の学術講演会は、特別講演には理化学研究所の高橋政代先生をお迎えして、世界をリードする「視細胞移植治療」のご講演をお願いし、また、兵庫医大の木村亜紀子先生に斜視領域のトピックスについてご講演いただく予定です。

その後の懇親会ではおいしいお食事をいただきながら、お二人の奏者によるミニコンサートを楽しみたいと思います。

多数の先生方のご参加を心からお待ち申し上げております。

兵庫県眼科医会 会長
藤堂 勝巳



淑瞳会 委員長
片上 千加子



- 日時 平成23年 9月24日(土) 17:00 ~ 20:00 (受付開始 16:30)
- ところ ホテルオークラ神戸・1階「曙」第一部講演会 「松風」第二部懇親会
- 会費 A会員 /12,000円 B,C会員 /3,000円
学術講演会のみのご参加 /1,000円

生涯教育認定事業

無料託児サービス付

● お返事は8月31日(水)までに同封の返信用FAX用紙にておねがいいたします。託児サービスをご希望の方は、同用紙に必要事項をご記入ください。

17:00 ~ 18:00

第一部

● 学術講演会

ミニレクチャー

『成人斜視の治療 — 複視と見た目が問題です —』

木村 亜紀子 先生 兵庫医科大学眼科学講座講師

特別講演

『iPS細胞と網膜色素変性』 高橋 政代 先生

理化学研究所 発生再生科学総合研究センター
網膜再生医療研究チーム チームリーダー

18:15 ~ 20:00

第二部

● 懇親会

ミニコンサート

常盤井 大志 Hiroshi Tokiwai Trumpet

白川 佳那子 Kanako Shirakawa Piano

● 本年度は「日本眼科医会男女共同参画事業」として補助金40万円を頂いております。

講演者プロフィール

● 高橋 政代

理化学研究所 発生再生科学総合研究センター
網膜再生医療研究チーム チームリーダー



1986年 京都大学医学部卒業
京都大学医学部眼科研修医
1992年 京都大学医学部大学院博士課程修了
京都大学医学部眼科助手
1996年 アメリカ ソーク研究所留学
2001年 京都大学附属病院探索医療センター開発部助教授
2006年 理化学研究所 発生再生科学総合研究センター チームリーダー

『iPS細胞と網膜色素変性』

日本で発明された iPS 細胞は世界に衝撃を与えた。その応用範囲は再生医療に限らず広く疾患の理解や治療に役立つ。我々は ES および iPS 細胞由来の視細胞や網膜色素上皮細胞を用いた網膜細胞移植治療開発を目指している。First in man となる臨床研究としては加齢黄斑変性に対しては RPE 移植、そしてそれに続いて網膜色素変性に対しては視細胞移植と考えているが、視細胞と網膜色素上皮は相互に必要としており一方の細胞が障害されると 2 次的にもう一方が変性するので、将来的には両疾患とも視細胞、RPE の同時移植が必要となる。現在すでにヒト ES/iPS 細胞から視細胞および網膜色素上皮細胞の分化誘導には成功しているが、臨床応用のためにはそれぞれの細胞についていくつかの問題を解決する必要がある。

視細胞移植に関してはヒト ES 細胞由来細胞の移植で網膜変性モデルマウスを治療できることがすでに報告されている。ただし、移植による効果判定はまだまだ確実な方法がなく、治療への応用は慎重にするべきである。一方で、最近まで視細胞移植に際しては ES/iPS 細胞から作った視細胞の純化が最大の課題であったが、それを解決に導く研究結果が最近理化学研究所の他のグループから発表された。科学の進歩によって視細胞移植治療がぐんと近づいたと考えられる。我々の視細胞移植研究の進捗と共に他のグループの成果についてもご紹介する。

また、iPS 細胞の出現で網膜色素変性患者の視細胞研究が初めて可能となり、変異遺伝子によって視細胞の分化、変性、有効薬剤が異なることがわかって来た。iPS 細胞の恩恵として個別医療への応用についてもご紹介する。

● 木村 亜紀子

兵庫医科大学眼科学講座講師



1994年 兵庫医科大学卒業
1999年 兵庫医科大学大学院医学研究科入学
2003年 兵庫医科大学眼科学講座助手
2006年 兵庫医科大学眼科学講座学内講師
2008年 兵庫医科大学眼科学講座講師

2007年 日本弱視斜視学会学会賞中川賞
2010年 日本神経眼科学学会学術賞

『成人斜視の治療 — 複視と見た目が問題です—』

兵庫医科大学病院眼科での斜視の手術件数は年々増加傾向にあり、昨年は 600 件を超えた。高齢者、大斜視角、癒着性斜視など難治症例が増加傾向にある。高齢化社会に伴い、元気な高齢者は整容面での改善を求めて手術を希望するようになり、難治性斜視は専門施設に速やかに送られるようになった。昔のように、斜視は治らない、もう年も年だし見た目なんかどうでもいい、という認識は薄れてきた。複視消失と整容面での改善には斜視手術が最も有効で簡便である。

本講演では、高齢者の斜視、大斜視角の斜視、難治性斜視における手術治療の実際とその治療成績を呈示する予定である。「見た目」の改善が患者にとって、我々の想像以上に大切であることを強調したい。

● ミニコンサート演奏者プロフィール

Trumpet 常盤井大志 Hiroshi Tokiwai



京都府出身。私立洛南高等学校を経て大阪音楽大学卒業、及び同大学専攻科修了。
現在フリーのトランペット奏者として活動中。
これまでにトランペットを宮村聡、吉田治人の両氏に師事。

Piano 白川佳那子 Kanako Shirakawa



大阪音楽大学器楽科オルガン専攻卒業、及び同大学専攻科オルガン専攻修了。
現在プライダルプレイヤーとして活動中。ピアノを池野洋子、大竹道哉の両氏に、オルガンを土橋薫氏に師事。